

Contents

- ▶「大四日市まつり」「くわな石取祭」「鳥出神社の鯨船」に協力
- ▶テレビ東京「ガイアの夜明け」に本学教員が出演
- ▶水環境科学研究室が北勢中央公園のマンボ調査を実施
- ▶実験用水田のイネに稲穂がつけました

- ▶朝明川源流域のブナ林でオゾン濃度と枯木調査を実施
- ▶「観光政策／環境保全とツーリズム」の合宿を実施
- ▶ライブオペレーションに挑戦！
- ▶2023年度全日本学生テニス選手権大会にテニス部が出場

「大四日市まつり」「くわな石取祭」「鳥出神社の鯨船」に協力

8月5日（土）・6日（日）、四日市市と桑名市では祭りが開催され、本学学生たちが協力しました。四日市を代表する祭りである「大四日市まつり」では、踊りフェスタの審査員として総合政策学部3年の桐山裕汰さんと谷口稜真さんが協力しました。また、大入道山車保存会の一員でもある総合政策学部4年の大西裕馬さんと3年の黒田伸さんは、大入道を動かす操り手として重要な役割を果たしました。同日、桑名市では「日本一やかましい祭り」として知られる「くわな石取祭」が開催されており、野球部の学生数名が堤原祭車の舵取りなどを行う夜通しの曳き回しに参加しました。

8月14日（月）には、四日市市富田の夏祭りである「鳥出神社の鯨船」にも総合政策学部から3名の学生が参加しました。伝統的な祭りは地元の人々の努力により運営維持されていますが、高齢化による担い手不足は否めず、他地域の学生が参加することは、祭事存続の助力の一つとなっています。

写真右上：大入道保存会での様子 左中：「くわな石取祭」堤原祭車の舵取りの様子
右下：「鯨船」町練りの様子

豆知識：「大四日市まつり」の大入道は県指定有形民俗文化財
「くわな石取祭」はユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財
「鳥出神社の鯨船」もユネスコ無形文化遺産、国指定重要無形民俗文化財



テレビ東京「ガイアの夜明け」に本学教員が出演



写真左：水田の水面を浮遊する徐放性肥料のプラスチック被覆
右：吉崎海岸で採取された同被覆

8月18日（金）、「ガイアの夜明け」『海よ…よみがえれ！～ニッポン式の挑戦～』が放送され、環境情報学部の千葉賢教授が出演しました。番組の後半にマイクロプラスチック問題が扱われた際に、千葉教授による藤前干潟のマイクロプラスチック汚染状況や、稲作などに使われる徐放性肥料のプラスチック被覆による伊勢湾の汚染状況などの解説が行われました。放送後には、テレビ東京のWEBサイトであるテレ東BIZ【ガイア もう一つのエピソード】#14 海に流出する「プラごみ」の動画がアップされ、動画では千葉教授が詳しく解説しています。※動画は有料会員向けとなっています。

（テレ東BIZ：入会月無料）

水環境科学研究室が北勢中央公園のマンボ調査を実施



7月5日（水）、環境情報学部水環境科学研究室（大八木ゼミ）は北勢中央公園にてマンボ（270年前に造られた、ため池とそこを水源とした暗渠式の手掘り農業用水路）の調査を行いました。今回は環境情報学部の野呂達哉准教授と地元の方たちに案内いただき、見学も兼ねて水質の調査を行いました。採水はマンボにバケツを投げ入れて行います。かなり気温が高い日でしたが、ゼミ生のテキパキとした作業のおかげで無事に終わることができました。

実験用水田のイネに稲穂がつけました

8月下旬、環境情報学部農業環境学研究室（廣住ゼミ）で栽培実験をしている実験用水田のイネに稲穂がつけました。この栽培実験では、研究室の学生が総出で土を掘り起こして水田を造成し、代かき、田植え、収穫まで全員が協力して行いました。

写真：研究室全員で田植えの様子（5月）



朝明川源流域のブナ林でオゾン濃度と枯木調査を実施

環境情報学部の野呂・廣住・千葉研究室は四日市大学自然環境教育研究会と共同で、朝明川源流域伊勢谷のブナ林の保護活動と調査を実施しています。8月19日

(土)には、オゾン測定器の設置と枯木調査を実施しました。オゾンは光化学オキシダントの主成分で、都市圏や臨海の工場群などで発生した窒素酸化物などが紫外線の作用で生じるもので、植物の光合成回路に作用して基礎生産を減少させると考えられています。鈴鹿山系でのオゾン計測は行われたことがないため、三重県保健環境研究会の協力を得て、山頂付近(標高1050m)から山麓(標高約500m)までの4地点に、オゾン計測器を設置しました。ブナ林の立ち枯れや枯木の原因解明と対策のために今後も継続的に調査する予定です。

[写真上：オゾン計測器を設置している様子 下：ブナ枯れを記録している様子]



「観光政策／環境保全とツーリズム」の合宿を実施



四日市大学の正課科目「観光政策／環境保全とツーリズム」では、地域問題を体験で学ぶための合宿を取り入れています。今年度は志摩市(8月28日(月)～30日(水))と答志島桃取町(8月30日(水)～31日(木))で合宿を行いました。志摩市観光課の方から志摩市の人口動態、産業構造、観光政策などについて説明をしていただき、横山展望台を訪問したり、英虞湾の立神浦で真珠養殖を行う井上真珠さんへ訪問し、養殖作業を体験しました。志摩自然学校の方から志摩市の水産業、英虞湾の環境問題に関する授業を受け、シーカヤックによる英虞湾周遊、答志島での伝統祭への参加など盛りだくさんの内容で、地域の自然・地域の方々との触れ合いを通じて、学生たちは多くのことを学びました。

[写真上：志摩市観光課の方からの説明を受けている様子 下：真珠養殖作業体験の様子]

ライブオペレーションに挑戦！



映像・音響・照明セミナーに所属する2年生が、初めてライブイベントのオペレーションに挑戦しました。環境情報学部1年生のバンド Smoke Panicが演奏しているところを、映像チームはスイッチャーを使った中継と収録を担当し、音響チームは観客に与える音の響きの調整とバンドが演奏しやすい音環境づくりを担当、照明チームは光の演出で空間を彩りました。1年生が見学する中、専門的な学びを始めたばかりの2年生で不安もあったと思いますが、綿密な打ち合わせを重ね、全員が目標を達成することができました。

[写真上：当日の様子 下：スタジオ外観]

2023年度全日本学生テニス選手権大会にテニス部が出場！



2023年度全日本学生テニス選手権大会が四日市テニスセンターにて開催されました。本学からは、男子シングルスに谷川大雅さん(総合政策学部4年)、男子ダブルスに谷川大雅さんと室井卓海さん(環境情報学部2年)ペアが出場しました。男子シングルスでは谷川さんが自己最高成績に並ぶベスト32に進出し、男子ダブルスでは、谷川さん、室井さんペアが初戦を突破し、予選決勝で惜しくも敗れましたが、強豪相手に一歩も引かず食い下がった試合展開を魅せてくれました。今年度のテニス部は、シングルス、ダブルスともにインカレ出場を果たし、部員たちは昨年度より大きく成長したシーズンとなりました。



←← 詳しい戦績などは四日市大学テニス部のインスタグラムをチェック！

※本号は2023年7月から9月までの情報を中心に掲載しています。

